

平成30年度

徳島大学生物資源産業学部
第2年次編入学学生募集要項

徳島大学生物資源産業学部

目 次

1. 生物資源産業学部アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）	1
2. 募集人員	1
3. 編入学の時期及び編入学年次	2
4. 出願資格	2
5. 出願手続	2
(1) 願書受付期間	2
(2) 出願書類等送付先	2
(3) 出願書類等	3
(4) 注意事項	3
(5) 検定料の返還	3
6. 選抜方法	4
7. 試験日時及び場所	4
8. 合格者の発表	4
9. 確約書の提出	4
10. 追加合格	4
11. 入学手続	5
12. 入学後の履修	5
13. 障がいのある入学志願者との事前相談	5
14. 個人情報の取扱い	6
15. その他	6
施設配置図	7

1. 生物資源産業学部アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

生物資源産業学部では、バイオテクノロジーを応用した生物資源の生産、医薬、食品としての有効利用に関連する幅広い知識、国際的に通用する専門性、バイオ産業創出に必要な起業マインドを持った人材の育成を目的としています。そのため、生物資源産業学部では、次のような人物を求めています。

【求める人物像】

- ・ 関心・意欲・態度
バイオテクノロジー、生命、医療、食料、農業、環境に強い関心と学びに対する意欲があり、自分で明確な目標をもっている人
- ・ 探究力
自分が関心を持ったことを深く掘り下げようとする人
- ・ 表現力
自分が伝えたいことを相手の視点に立って適切に表現できる人
- ・ 知識・教養
本学部の専門分野を学ぶために、高等学校で修得すべき理科系・文化系にわたる知識・教養をもつ人
- ・ 思考・判断力
今までの知識・教養をもとに思考を深めて適切に判断できる人
- ・ 協働力
問題解決のために、国籍や世代、考え方にとらわれることなく、対等の立場で協力できる人

2. 募集人員

生物資源産業学科 2人

生物資源産業学部生物資源産業学科には、以下の3コースが設置されており、第2年次にいずれかのコースに配属されます。入学願書の所定の箇所にコースの志望順位を記入してください。

設置コース・概要

(1) 応用生命コース

生物学、化学、工学を融合し、最新バイオ技術を駆使して健康、資源、環境等の諸問題を解決するための専門知識や技術を修得することができます。創薬、細胞機能の解明と応用、バイオマス有効利用等により、諸問題を解決できる能力や、開発したバイオテクノロジーを産業へ応用し、バイオベンチャー関連の企業でも活躍できる能力を養成します。

(2) 食料科学コース

最新バイオ技術を駆使して食料、健康、資源、環境の諸問題を解決するための専門知識、技術を修得することができます。微生物機能の利用、機能食品の開発、フードビジネスに関する教育を進め、農学、工学、医学、栄養学及び薬学的見地から新しい安全な食品開発と産業化に貢献する能力を養成します。

(3) 生物生産システムコース

先端的作物生産、家畜繁殖、育種工学、植物工場、資源増殖の教育研究を製品開発や販売戦略等も含めて行い、安全な生物資源の安定供給に関わる諸問題について多面的観点から解決法を探求し、生産性の高い持続的1次産業を構築するための知識・技術力を修得します。また、生産生態系の保全を通して、農山漁村の多面的機能についても学び、1次産業の後継者教育を養成します。

3. 編入学の時期及び編入学年次

編入学の時期は、平成30年4月1日とし、第2年次に編入学するものとします。

4. 出願資格

次のいずれかに該当する者とします。

- (1) 大学を卒業した者及び平成30年3月までに卒業見込みの者
- (2) 短期大学を卒業した者及び平成30年3月までに卒業見込みの者
- (3) 高等専門学校を卒業した者及び平成30年3月までに卒業見込みの者
- (4) 修業年限4年以上の大学に1年以上在学（休学期間を除く。）し、33単位以上を修得している者及び平成30年3月までに修得見込みの者
- (5) 外国において学校教育における14年の課程（日本の通常の課程による学校教育の期間を含む。）を修了した者及び平成30年3月までに修了見込みの者で、上記(1)(2)(3)(4)の各号の一に相当すると認められる者
- (6) 専修学校の専門課程（修業年限が2年以上で、かつ、課程の修了に必要な総授業時間数が1,700時間以上のものに限る。）を修了し、大学入学資格を有する者及び平成30年3月までに修了見込みで、大学入学資格を有する者。

(注) (5)により出願しようとする者は、出願資格等の事前確認を行いますので、平成29年7月21日（金）までに生物資源産業学部学務係へ照会してください。

5. 出願手続

志願者は、(3)出願書類等を所定の出願用封筒に入れ、必ず郵便局の窓口で「書留」として発送してください。なお、発送の際に郵便局の窓口で受け取った「書留郵便物受領証」は、出願したことの証明書類として大切に保管しておいてください。

(1) 願書受付期間

平成29年7月31日（月）～平成29年8月4日（金）（必着）

※郵送のみ（持参は受け付けません）

(注) 願書受付期間後に到着した出願書類は受理しません。ただし、平成29年8月2日（水）までの消印があるものに限り期限後到着の場合も受理します。

(2) 出願書類等送付先

〒770-8513 徳島市南常三島町2丁目1番地

徳島大学生物資源産業学部事務課学務係 TEL 088-656-8021

(3) 出願書類等

書類等の種別	記入方法・注意事項等
入学願書	所定の用紙に志願者本人の自筆で記入してください。
受験票・写真票	所定の用紙に志願者本人の自筆で記入してください。 受験票及び写真票には上半身・脱帽、正面向きで同一の写真（縦4cm×横3cm、最近撮影した本人確認が可能なもの）を貼ってください。
卒業証明書又は卒業見込証明書	出身大学長・学長等が証明したもの。 （出願資格(4)に該当し、在学中の者は、所属大学長又は学部長が作成した在学期間証明書）
調査書又は成績証明書	出身又は在学の大学・学校長が証明し、厳封したもの。 （出願資格(4)に該当し、在学中の者は、平成30年3月までに修得見込みの科目及び単位数が分かる書類を添付してください。（※履修状況（予定）関係書類）
※履修状況（予定）関係書類	出願資格(4)に該当する者のみ。 出願時に33単位未修得の者は履修状況（予定）の分かる書類。（任意様式） 年間履修登録確認票等を発行されていない場合は、カリキュラム表等の写しの履修予定科目に印をつけたものを提出してください。
専修学校専門課程の修業年限及び課程修了に要する総授業時数の証明書	出願資格(6)に該当する者のみ。 本学所定の様式により出身専修学校長が作成したもの。
検定料払込証明書	検定料は30,000円です。所定の用紙により最寄りのゆうちょ銀行又は郵便局窓口から払い込んでください。その際に受領した「検定料払込証明書（出願用）」は、所定の用紙に貼ってください。
あて名票	所定の用紙に本人の郵便番号・住所・氏名を記入してください。
受験票送付用封筒	所定の封筒に郵便番号・住所・氏名を明記し、速達料金を含む362円分の郵便切手を所定の箇所に貼ってください。

(4) 注意事項

- ①出願書類等に不備がある場合は、受理しないことがあります。
- ②出願書類受理後は、書類の返却、記載事項の変更及び検定料の返還はいたしません。
- ③入学願書及びあて名票に記載した住所及び電話番号等が変更になった場合は、速やかに生物資源産業学部事務課学務係まで連絡してください。
- ④出願書類に虚偽の記載をした者、及びその他不正な事実が判明した者については、入学後であっても入学の許可を取り消すことがあります。
- ⑤受験票は、平成29年8月18日（金）までに発送します。受験票が平成29年8月21日（月）までに未着の場合は、生物資源産業学部事務課学務係へ連絡してください。

(5) 検定料の返還

一旦納入された検定料は返還しません。

ただし、次に該当する場合は、納入済みの検定料を返還しますので、生物資源産業学部事務課学務係へ申し出てください。

- ①出願書類が受理されなかった場合
- ②検定料を誤って二重に振り込んだ場合
- ③検定料を振り込んだが、出願書類を提出しなかった場合

6. 選 抜 方 法

小 論 文

面 接（個人面接 ※口頭試問を含む）

入学者の選抜は、小論文の成績、面接の結果及び志願者が提出した出願書類等を総合して判定します。

7. 試験日時及び場所

日 時：平成29年8月25日（金）

場 所：徳島大学 常三島キャンパス 共通講義棟
徳島市南常三島町2丁目1番地

時 間：10：00～11：30 小論文
13：00～ 面 接（個人面接 ※口頭試問を含む）

- (注) 1. 試験開始30分前までに試験室へ入室し、着席してください。
2. 試験開始後20分以上経過した遅刻者は、受験できません。
なお、面接の遅刻者は、遅滞時間の長短に関係なく、受験できないことがあります。
3. 小論文においては、試験開始から終了まで退出は認めません。
ただし、試験中の発病・用便等やむを得ない場合は、手を挙げて監督者の指示に従ってください。

8. 合格者の発表

合格者の受験番号を次のとおり発表するとともに、合格者に対し文書で通知します。

なお、電話等による可否の問い合わせには応じられません。

発表日時	発 表 方 法
平成29年9月15日（金）15時	・徳島大学理工学部・生物資源産業学部正門掲示板にて掲示 ・徳島大学生物資源産業学部ホームページ（下記 URL）にて掲載 http://www.bb.tokushima-u.ac.jp/

(注) 合格者情報は、生物資源産業学部ホームページへ1週間程度掲載します。

なお、ホームページの内容と学内掲示板による合格者が異なる場合は、掲示による合格発表を正しいものとします。

9. 確約書の提出

合格者は、「入学確約書」を平成29年9月29日（金）までに提出してください。

なお、「入学確約書」が期日までに提出されない場合は、辞退したものとして取り扱います。

10. 追 加 合 格

入学定員（募集定員）に欠員が生じた場合は、追加合格を実施することがあります。

追加合格を実施する場合は、入学願書の「選考結果通知先」へ電話連絡した後、文書で通知しますので、本学部が指定した日までに生物資源産業学部事務課学務係に入学の意思を文書で回答してください。

11. 入学手続

合格者は、入学手続期間内に必要書類等を入学手続場所に郵送又は持参して、手続を行ってください。入学手続に必要な書類等は、入学手続期間前に郵送で通知します。(2月上旬予定)

なお、入学手続に際し、配属されるコースについて、確認をとる場合があります。

授業料等学生納付金

(1) 入学料	282,000 円
(2) 授業料	前期分 267,900 円
	年 額 535,800 円

- (注) 1. 入学料及び授業料は現行の金額であり、改定されれば改定金額が適用されます。
2. 在学中に授業料改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。
3. 授業料の納付については、希望により前期分の納付の際に、後期分も合わせて納付できます。
4. 入学料、授業料とも経済的な理由により納付が困難であり、かつ、学業が優秀と認められる者又は風水害等の特別な事情がある者は、選考の上、全額又は半額の免除が認められる制度があります。

(3) その他の経費として後援会費、工業会費、学生教育研究災害傷害保険料等 約70,000円の経費が必要です。

12. 入学後の履修

第2年次編入学生の修業年限は3年で、在学期間は3年を標準とし、休学期間を除いて6年を超えることはできません。なお、既修得単位の認定の結果により1年次及び2年次の教養教育科目を履修することがあります。

卒業に必要な最低履修単位 (卒業要件単位数)

教養教育科目	31 単位以上
専門科目	94 単位以上
計	125 単位以上

13. 障がいのある入学志願者との事前相談

受験上及び修学上の配慮を必要とする場合は、次のとおり生物資源産業学部事務課学務係に申し出てください。

(1) 時期

平成29年7月21日(金)まで

(注) 受験上及び修学上の配慮の方法を検討する必要がありますので、できるだけ早い時期に相談してください。

(2) 方法

次の①～⑧を記載した書類(様式は任意)を提出してください。

- ①氏名、生年月日
- ②第1志望のコース名
- ③現住所・電話番号及び保護者の連絡先
- ④障がいの種類・程度(後日、健康診断書の提出を依頼する場合があります。)

- ⑤受験の際に配慮を希望する事項及び内容
- ⑥修学の際に配慮を希望する事項及び内容
- ⑦出身学校等で在学中にとられていた配慮及び出身学校等名
- ⑧日常生活の状況等

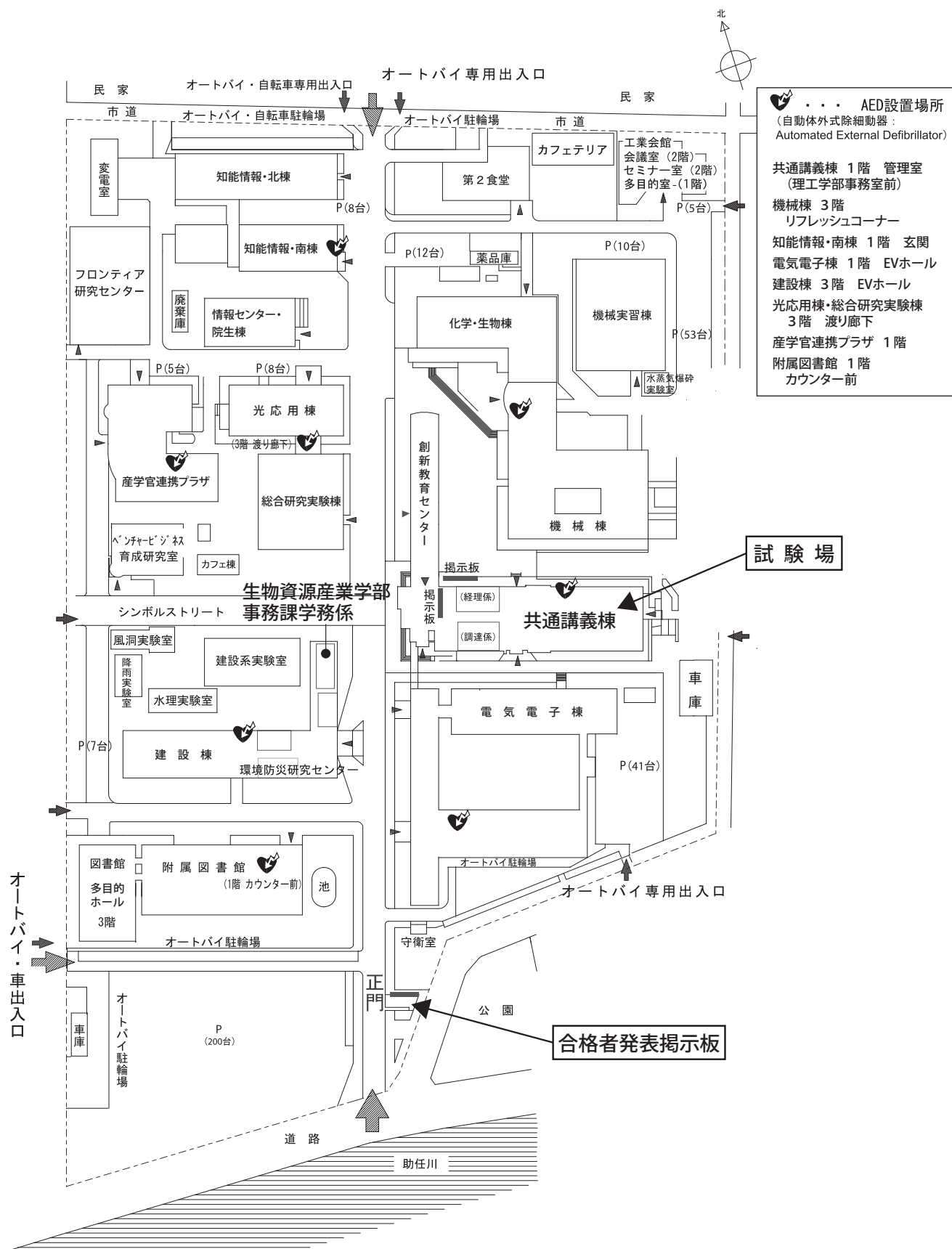
14. 個人情報の取扱い

- (1) 出願書類等に記載された氏名，生年月日，その他の個人情報については次の目的をもって，本学が管理します。
 - ①入学者選抜，合格通知及び入学手続き等の入試業務
 - ②合格者の入学後の教務関係（学籍管理，修学指導等），学生支援関係（健康管理，奨学金援助，就職支援等），授業料等に関する業務
- (2) 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報は，入試結果の集計，分析及び入学者選抜方法の調査，研究（入試の改善や志願動向の調査，分析等）のために利用します。

15. その他

入学前に履修した科目の認定単位数によっては，入学後3年間で卒業できない場合もあります。

施設配置図



- . . . AED設置場所
 (自動体外式除細動器: Automated External Defibrillator)
- 共通講義棟 1階 管理室 (理工学部事務室前)
 - 機械棟 3階 リフレッシュコーナー
 - 情報情報・南棟 1階 玄関
 - 電気電子棟 1階 EVホール
 - 建設棟 3階 EVホール
 - 光応用棟・総合研究実験棟 3階 渡り廊下
 - 産学官連携プラザ 1階
 - 附属図書館 1階 カウンター前

試験場

合格者発表掲示板

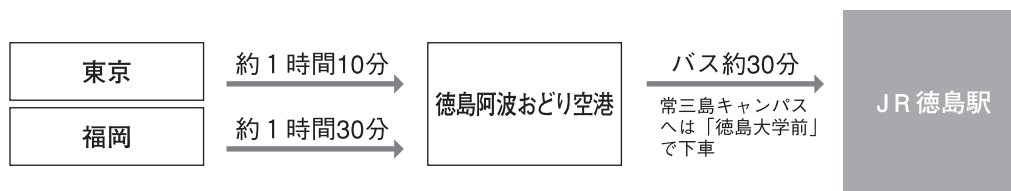
オートバイ・車出入口

位置図



交通アクセス

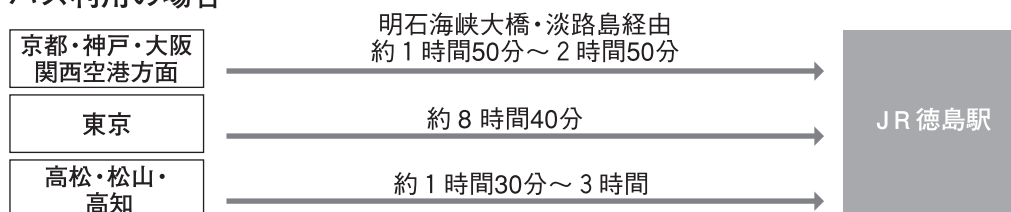
■ 航空機利用の場合



■ 鉄道利用の場合



■ バス利用の場合



■ フェリーボート利用の場合

